



日本の緑化事情 / 屋上緑化の注意点

◆農業では無い
とくく緑化を行うと、みどりミドリしたものを想像しがちですが、農業であれば短期間に植物を育てることが目的ですが、屋上緑化は過度に育つては都合が多いのです。
農業では早く安定的に植物が育つように様々な土壌改良がなされますが、いわゆる肥えた土壌、有機質が余り多すぎると、数年経過後と有機質が分解し目減りします。その為土の粒子が目詰まりし、植物がかれてしまいます。
その為、屋上緑化（特に薄層屋上緑化）では、有機質を調整しつつ植物が長きにわたり生育出来るような人工土をつかいます。
VUS500では、そういったことを与え人工土を使用してあります。
◆防水層がある
通常屋上には必ず色々な防水が施されています。屋上に土壌を直に敷設する場合やVUS500のようにパレット型を敷設する場合も、必ず防水層を傷つけない配慮が必須です。
施工の途中にドリルや

スコップで露出防水を傷めることが懸念されます。その為防水層の上にシンダーコンクリートや打つことなどで、衝撃吸収を設計することになり、作業者のうっかきミスを防ぐことにつながります。
また、植物ですの「根」が伸長します。植物の生育のすまじは、防水層の継ぎ目などに根が侵入してしまふこともあり根が防水層を膨らませて漏水の原因になる事もあります。
対策としては、劣化しにくい素材で出来た「耐根シート」を使用することが賢明です。
VUS500では、パレットを並べるだけでOKですが、パレットそのものがずれたり風で飛ばないように工夫は必要です。パレットを固定するの、建築物と同じ感覚で施工できることに比較するところ、かなりのリスクヘッジが可能です。施工の経費も安く収まります。



大日製品現場レポート

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

「ビッグサンUGA工法」は、高度浄水処理施設向けのポリマーセメント系耐オゾン防水工法です。高度浄水処理施設とは、浄水場において、オゾンの強力な酸化作用と粒状活性炭による吸着効果により通常の浄水処理では対応が困難な浄水処理の原因となる物質、カルキ臭・トリハロメタンのもととなる物質を分解・除去するための施設です。
しかし、一方で、オゾンが躯体に直に触れるとコンクリートの中性化を引き起こしたり、粒状活性炭がコンクリートの摩耗が起きてしまふ、躯体の摩耗が起きてしまふ、施設そのものにダメージを与えてしまふ懸念があり何らかの処置が必要になります。が、「ビッグサンUGA工法」なら解決可能です。
特殊な樹脂により耐オゾン性を実現し、また、活性炭による摩耗からも躯体を保護します。さらに、「厚生省令第15号」及び「厚生労働省令第15号浸出試験」に適合しているため、水道施設において安心してご使用頂けます。



埼玉県某浄水場では、高度浄水処理施設の躯体保護の必要性を認識されており、平成31年度に生物活性炭吸着池防食塗装修繕工事として、「ビッグサンUGA工法」を採用頂きましたが、一度にすべての水槽の稼働を止められず、数年単位で工事を分割することになり、令和2年度にも引き続き工事が行われ、弊社も現場施工に立ち会わせて頂きました。
そして今年度もまた、工事の準備が着々と進んでおります。

DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.

●本社
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13
TEL: 06-6909-6755(代) / FAX: 06-6909-6702
●東京支店
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL: 03-3436-3801(代) / FAX: 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も
お楽しみに

URL: <http://www.dainichikasei.co.jp>

Vol.54

映画で学ぶ 環境問題

ミニマリズム：本当に大切なもの

原 題：Minimalism: A Documentary About the Important Things

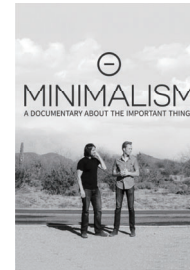
監 督：マット・ダベラ

出演者：ジョシュア・フィールズ
ミルバーン

制作国：アメリカ合衆国

上 映：79分

公 開：2016



数年前には流行語にもなるくらい流行った「断捨離」そして同じ頃？からも聞くようになった「ミニマリスト」どちらも似ていて非なるようなのですが、この映画は後者のミニマリストであるライアンとジョシュアの二人がミニマリズムを伝えるドキュメンタリーです。
ミニマリストとは、本当に大切で必要なものだけを厳選して生活するライフスタイルで、最低限を厳選するので持ち物への愛着や所有することが幸せという概念から抜け出し、

少なくとも心豊かで幸せな暮らしを実現できるというものです。
元々年収10万ドルを超える収入があったが、心みたされる事なくこのままでもいいのかと自問自答している中、ミニマリズムという生き方にて実践し、高収入や高級車・高級家電などのものの所有では満たされなかった、精神的な豊かさこそが本当の幸せを得ることが出来たことを書籍にし、そのキャンペーンを行っている様子をドキュメンタリーにまとめています。
その中で紹介されている「お金や物が人生を豊かにするわけではない」

「本当の幸せとは何かを問いかけていますが、事例としてスマホやファッション・車について、最新のものが欲しくなり手に入れるそれをひたすらくり返しているだけであり何ら満たされるものはない。つまり消費に明け暮れているだけなのだ。」
ファッションに至っては、四季毎に服を変えていくというのではなく、52回買い換えるというもの。つまり毎週新しいものが出れば消費をくり返している。とあるパレル店では洋服をハサミで切り裂き、売ったり着たりする事が出来なくしているとも紹介されています。
赤ちゃんの時から至る所に広告があり目にして育ってきたので、ある意味で洗脳です。そのあげく、大量のゴミが発生しゴミを処分するため、地球環境を侵していることになりま。

ファッション業界には汚水・水の大量消費・海の汚染・ゴミ・化学薬品・温室効果ガス・土壌汚染という7つの環境問題があるとも言われています。ファストファッションが流行る中、生産するのは途上国が基本ですが、これらの国には染色時の有害物質などを適切に処理できる設備が無い事が大半だそう。他にも色々な要素が環境破壊を助長しているともいわれていますが、そういった無理な生産を行っている根源は消費にあります。
この映画はNetflixで観ることが可能です。一度観られてはいかがでしょうか。

ます。大量に生産し大量に消費される。経済が廻るという意味合いでは良いことではと思われまが、その経過に目を瞑っていては本末転倒です。
これらを少しでも回避できることは何でしょうか？この映画で紹介されているように、不要なものを買わない。ということも一つの手だともいえます。しかし全ての人がミニマリストになる事はありません。消費するこの思想の自由です。消費すること幸せだと考える人も多数いることでしょう。しかしそれらのなかから一つでも、本当に必要なものなのか？と購入前に一度考えてみても良いのではないのでしょうか。本編の中でプロジェクト333というのを紹介されています。着るものを33アイテム選んで3ヶ月間それで過ごすというもの。組み合わせを工夫することで意外と誰にも気付かれないそうですよ。
ファッションばかりではありません。ファストファッションが手軽に多くの人が利用しているため、こういった身近なものから考えて行くと、多くの人が少しずつ環境破壊を緩和にすることができると思われるのです。